

# はぐくむ光のびる若芽

136

橋場 須藤つる子

わが家の一日の始まりは、「おかあさん、おはよう。」と小一の娘、「かか、おはよう。」と五才になる一男。六時半までには、主人、一男、高一になる長男が起きてきて、六人家族の朝食が始まります。と同時に親子の会話も始まります。

この習慣は長男が生まれてから十七年間続いています。というのは、父親の帰宅時間がいつも遅く、子供とのコミュニケーションシヨンがとれない為、朝だけでもスキンシップを持つとうということが始まりました。簡単なように思えますが、父親にとっては、大変なことだと思います。なぜなら、仕事で朝方の三時頃に帰宅することもあり、よほど体の悪くないかぎりには、少しの睡眠をとって子供達と食卓につきます。そういつた影響もあつたか、一番難しい時期で

もある長男は悩み事があつたりすると、父親に相談して解決しているようです。もう一つわが家で続いている事は、子供達がオオの時から小学校二年生ぐらいまで毎日寝る前に本の読み聞かせをしてあげていることです。その為父親がうるさく言わなくても早寝早起きの習慣が自然に身につく

## スキンシップ

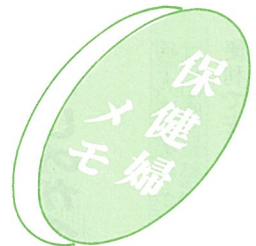


▲子育ては気力・体力そして忍耐

又、三人とも本がとても好きなことです。あとは、学校へ行く前に一つだけ仕事を与えて、責任を持ってやっつけていくことですが、忘れていく時もあるようです。同じように育てているつもりでも、長男は、呑気で我が道を行くというマイペース

I型、長女は、勝気で、何でも納得するまでとことんやるという性格。二男は、おっとりしているわりには、神経質などころがあります。三人性格は違いますが、それぞれの個性をいかし、思いやりのある感謝のできる子に育ててくれたらと思います。私自身、日頃から誉めて子育てを、と思つていますが、怒る

回数の方が多いようで反省させられる毎日です。十七年間子供を見てきて思うことは、子育てとは、気力と、体力、そして忍耐であることをつくづく考えさせられる今日この頃でもあります。



## 乳幼児には危険がいっぱい

夏の強い日ざしの中で遊んだり、戸外に出て、虫に刺されるなど、夏に起こりやすいものについて今回お話しします。

### 虫に刺されたとき

蚊に刺されたくらいなら一兩日で赤みやはれがひけば心配ありません。しかし、乳幼児は皮膚が弱いため刺されると大きく赤くはれあがる場合があります。とくに、アレルギー体質の子どもは、治りにくいことが多いものです。はれがひどかったり化膿したよふな場合は、早めに病院（皮膚科）へ連れていきます。ハチや毒のある虫に刺された場合は、刺されたところをつまんで毒を押し出し



## 日射病・熱射病

戸外で強い直射日光にさらされたとき起こるのが日射病。高温の部屋や車の中に長時間いたときに起こるのが熱射病です。いずれも放置すると脱水症状におちいりますから、すぐに涼しいところに移して下さい。衣服をゆるめ、冷たいタオルなどで頭やからだを冷やし、水分を十分補給します。吐き気があったり、熱がでたり、意識がはっきりしないときは急いで病院（小児科）へ連れていきます。

### 防止対策

- 蚊の多い林や草原などで遊ぶときは長そで、長ズボンをはかせ、虫よけスプレーを使用する
- 軒下などにハチの巣があれば取り除く
- 暑い部屋や車の中に長時間置かない
- 汗をかいたあとは水分をたっぷり補給する

### 防止対策

- 戸外に出るときは帽子をかぶせる
- 直射日光に長時間さらさない

